



鈴田牢跡にて

島のひかり ホームページアドレス
<http://lifeaidgoto.jp/cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会
 広報委員会
 五島市平蔵町2716
 TEL 0959-00072
 印刷・(株)才津印刷所

モチベーション

— いくつかしみの年に —

主任司祭 岩崎 晋吾

人が物事を行うにあたって、積極的に取り組む姿勢の為にモチベーションが必要だと言われます。これには2つのモチベーションがありまして、一つは内的モチベーションと、もう一つが外的モチベーションです。

『モチベーション入門』（日本経済新聞出版参照）外的モチベーションとは、たとえばある事を行うことによって外的な報いが刺激となる心的な力のことで、金銭的な報酬を得る事が出来るとか身分を保障してもらえとかいようなものです。それに対して、内的モチベーションとはその物事をやっている事自体に意味や価値、または喜びを自身の内面で感じられ、それがその取り組みの原動力となっているものです。

信仰について考えるならば、その道を歩む積極性は内的モチベーションによるものです。時

に、信仰を外的モチベーションによるものと考える場合があります。たとえば信仰を守れば天国へ行ける、神様からたくさんのお恵みをいただける、立派な信仰者として周りの人々からも尊敬される、など。また、これらの報いを喪失してしまうことへの恐れによる、外的モチベーションもあります。しかし、信仰は本来信じて生きていることそのものが喜びとなっている内的な力によるものです。信じて希望のうちに生きる事ができること、他者をゆるすことで自らが解放されること、困難にある人々にいくつかしみの手を差し伸べることなどのこれらが、深い喜びとなる内的なモチベーションによるものが信仰のあり方のように思えます。

いくつかしみの特別聖年を迎えました。いくつかしみは教会の心でしょうから、教会の内的刷新を目指す年であると理解しています。信仰の喜びをもって、いくつかしみの表現ができるようこの年を過ごしていきたいと思います。

主の御生誕、新年明けましておめでと〜うございます。

評議会副議長 鍋内 秀明



昨年、評議会副議長という大役を何の下積みもないまま仰

せつかり、手探りのままご迷惑をかけながら一年が経とうとしています。皆様には、大変お世話になりました。昨年十二月から、いづくしみの特別聖年が始まっています。いづくしみ深く、御父のように見守っていただければ幸いです。

長崎の教会群とキリスト教関連遺産の世界遺産登録が、今年七月に開催されるユネスコの世界遺産委員会で決定されます。登録後、観光客が増え五島の活性化につながると思うと今年こそは！という気持ちになります。教会での祈りや暮らしの妨げになることなく、来島者も教会も、そして地域の方々も皆が世界遺産に登録されてよかったと受け入れられる仕組みを構築していくことが望まれます。さて、一年の計は元旦にありとよく言われます。わが家では、

毎年元旦に家族それぞれが今年の目標を掲げるようにしています。紅白が始まる頃、そういえば！という感じで反省会をするのですが、一年を振り返り改めて目標を書いた手帳を見てみると、その目標すら忘れ、ほとんど達成できていないことに情けなくなってしまう。何かに取り組むたびに失敗し、落ち込み、反省して、また明日から頑張ろうと自分自身を奮い立たせる日々の繰り返しです。

ただ、「初心」という言葉はこれからも大切にしたいと思えます。慣れると油断が生まれ、ミスも多くなります。最初の初々しい気持ちを忘れず、周りの方々に助けられ、少しでも助けられるようになりたいです。

今年の目標は…、一つでも達成したいと思えます！
それでは、今年も皆様が神様のお恵みを受け、健康でますますご活躍できることを祈念いたします。

浦頭教会・堂崎教会

イルミネーション

十一月二十二日と二十九日の二日間で、クリスマスを迎える準備のために、教会内外の飾り付けが行なわれた。

今年は教会のイルミネーションに加え、「おくうら夢のまちづくり協議会」（会長・赤尾健野）の協力を得て、共同での作業となった。協議会の担当としては、教会南側の上り坂にアーチを設置、それにイルミネーションが施された。桜の木にも電球が付けられ、まるで桜が咲いた



浦頭教会



堂崎教会とマリア様

ように美しい。堂崎教会も協議会の協力によって、初めてイルミネーションがお目見えした。堂崎教会駐車場より光が灯され、教会裏のマリア像も輝きを放っている。教会正面にはスポットライトを設置し、幻想的な風景となった。二十九日、午後五時半より浦頭教会で点灯式があり、拍手と共に色とりどりの光がそれぞれの顔を照らす。その後、神羊館に於いて茶話会が行なわれ、野口市長夫妻も駆け付けて下さいました。この光の様に、明るく美しい心でクリスマスを迎えられるれば幸い。今後も宜しく。

Y・T

私たちの新たな決意

毎日が格闘

入口 理恵



新年明けましておめでとう
ございます。

今回、この原稿依頼を受け
るのにためらいがありました：

「だって歳がバレルじゃないですか!!」

でも、旦那・父・叔父が島のひかりに携わって
いるので書くしかないなと……。

昨年、待望の娘も生まれ、現在三匹の子ザル達
を育てております。息子二人は保育園に通って
おり、色々な行事に参加できる事が楽しみになっ
ています。私も昨年の夏から、以前勤めていた所で
働き始め、毎日が慌ただしくなりましたが、少し
の間、家事と子育てから離れる事はいい気分転換
になっています。

その間、子供達を見てくれている保育園の先生
方、両親には感謝しています。改めて、人は助け
合い、支え合いながら生きていくんだなと思いま
す。「子供は親の背中を見て育つ」と言うので、
いい見本になるように言動に気をつけたいと思
います。最近私も、母の言動に似てきた所があるよ
うな……

何事をするにも、まずは健康が一番なので、気
を引き締めて良い年にしたいと思います。
皆さんにとっても良い年でありますように。

年男に思う

川口 清人



新年おめでとう
ございます。

私も今年世間で
言うところの還

暦を迎えることとなります。と
は言っても、自分自身では六十
代に入るといふ自覚は全く無く、
還暦と言われても人事のように
思われます。

ただ、歳は容赦なく訪れてい
るようで、知的には物を覚えら
れない、記憶がすぐに出てこな
い、忘れる。体力的には、以前
は階段を一つ飛ばしに上ってい
たのに、一段づつ上っても息切
れる。ちょっととした段差でつ
まづく等、高齢者の症状が少し
ずつ現われているようです。そ
んな自分にちょっとガツカリし
ながら、何かしなければと気持
ちばかりがジタバタしておりま
すが、結局毎日の生活に追われ
何もしていないのが現状です。
そんな現状ではありますが、

今年で節目の六十となり、今後
の生き方を考える時、物を忘れ
ることや体力の衰えは、ひよっ
として神様からのプレゼントで
はないかと思っております。それ
は、人は忘れることによって辛
いことや悲しいことを永く思い
悩まずに次に向けて生きていけ
る。忘れるから、もう一度一か
ら勉強し直す。これが、昔から
言われる六十の手習いなのでは
ないか。そして、体力が衰える
から若い時みたいになら行動す
ることが減る分、何処かにとど
まってこれまでの人生の反省と
神様に祈る時間を与えてもらっ
ている、と感じています。

私も、この一年で新たに六十
の手習いを探し、祈る時間を見
つける年にしていきたくないと考
えています。



殉教地巡礼に

参加して

入口 義則

十一月二十一日、九時二十分発のジェットフォイルで長崎港へ向け出港し、長崎着は十一時十分。間もなく長崎港より大村の植松教会へマイクロバスで移動しました。高速道路を走ったので、三十分位で植松教会に到着しました。ちょうど昼だったので、植松教会の信徒会館に昼食の準備をしてくれていたの、紙崎神父様と岩崎神父様を交えて、大村名物の大村ずしをいただきました。昼食後、バスで殉教地巡りをしました。ガイドを植松教会の中口さんにしていただきましたが、大村での殉教地での話を聞いて、先人の人達は信仰心が強かったと思いま

す。現代社会において、信仰心が薄れてきているのではないかと思います。殉教地巡りが終り、植松教会の信徒会に戻り宿泊しました。次の二十一日も、朝食を信徒会館でいただきました。朝食後、九時より植松教会で紙崎神父様と岩崎神父様の合同ミサが行なわれました。ミサ後、植松教会を後にして、バスで島原へ向いました。島原では、島原教会と殉教地を巡りました。二十二日は雲仙に泊り、二十三日は、雲仙教会で岩崎神父様の御ミサにさざかりました。ミサが終わった後、長崎へ向かって帰って来ました。



島原教会堂にて

巡礼旅行

富上 静枝

殉教地巡礼に参加するチャンスに恵まれ、感謝しております。大村・島原の殉教地で、今では考えられないような迫害の説明を聞き、強い意志を持って命をかけて守り通した殉教者達の神への信仰の強さと結びつきを考えると、身が引き締まる思いと自分の無信仰が恥かしくなりました。

島原の殉教者記念聖堂のステンドグラスの素晴らしさと、十字架の形に安らぎを感じました。今回の巡礼で得た強い神への信仰を、言葉や行いをもって子供や孫に伝えていけるようになければと思いました。今回の旅行では、三日間とも植松教会専用のガイドつきバスで案内して頂きました。紙崎神父様はじめ、信者の方の温かいおもてなしに感謝！とても素晴らしい巡礼旅行でした。

昭和四十一年、
まだ子供だった頃”
(正月の頃)

大晦日、紅白歌合戦を見ながら夢ごちちの中にいた。冬休みに入ると、県道は子供達の喚声に溢れていた。通る車はまばらに見張り役が「車が来たぞー。」と大声で知らせる。ガー。ゴトン。ゴトン。土埃りをはね上げながら、ディーゼル車が進む。バーと道の端に散らばった子供達は、通り過ぎた車に目もかけず、再びメンコ、コマ回しに興じ始める。

正月、堂崎の初ミサに遠く、近くから、男はいっちょうらの背広、女性は華やかな和服を身にまとい、厳かな雰囲気の中に入っていく。背を向けた松下神父様の朗朗とした声が、堂内に響き渡る。
平成二十八年正月。集まり出した信徒の声に誘われる様に、初ミサに向かって歩き出した。

牢屋の窄殉教祭

秋晴れの十月二十五日、殉教

祭に参加するために、下五島地区の信徒らは檜ノ浦の波止場に集合した。まもなく、久賀の海上タクシーが入港。約二十分程で浜脇に到着。いつもと同じように、久賀の島は優しく迎えてくれた。私は最近、膝が痛くて目的地の久賀小・中学校まで歩けるか心配しながらの道程だった。途中、もう駄目かなと思っただが、久賀の殉教者の万分の一でもない苦しみと思い頑張った。午後一時、小・中学校から牢屋の窄までロザリオを唱えながらの行列。これも、四年位してなかったのかな。

午後二時、福江教会の中村満神父様の司式のもとにミサが捧げられた。いつものように、殉教者の碑文が朗読されるのですが、毎回のように目頭が熱くなります。

ミサの会場は椅子がなく、特に高齢者は大変だと思いが、殉教者の苦しみからすれば？

クリスマス おゆうぎかい

十二月十二日、平和のぼら保育園では、楽しいおゆうぎかいがありました。聖劇に始まり、続いて岩崎神父様のお話で「皆さんは、セミやヘビの脱け殻は知ってますね。皆さんには脱け殻はありますか？」子ども達は無いと答えた。神父様は言った。



「ダンスの中をござらんさい。皆さんが今まで着た小さくなっ

た洋服があるはずですよ。それが脱け殻です。皆さんが成長した証だと」。十四のプログラムを元気よく演技した。脱け殻から立派に脱皮した子もいれば、まだまだ殻に閉じこもったままの子もいて、それがまた面白い。御指導して下さいました先生方、お疲れさまでした。最後に大変楽しいサンタさんが登場して、園児達の興奮は絶頂に達しました。園児たちの益々の成長を祈ります。楽しませてくれて、ありがとう。



Xマスコンサート

奥浦混声合唱団

12月6日

さて、ビックリポンはお客様の多かったこと。心をこめて歌うマイ・バラード、家族になろうよ、祈り、Xマスソングなどなど、聴く人の心も伝わりしあわせ。毎回、花を添えてくれる天使たちは、奥浦小、奥浦中、福江少年少女合唱団。あったかくて、元気いっぱい、慈恵院のハンドベルは皆胸キュン。さてさて、今回の出来は？安心して下さい。



指揮者一押しです。押して下さるからなんとね。奥浦に縁をつなぎ二、十四年あり、継続は力なりですね。

成人を迎えて

竹山 由夏



二十歳という節目を迎えて大人の仲間入りを果たす成人式。私が思っていたより、あっという間にこの日がやってきていました。

今までの二十年を思い返してみると、家族や友人を初め、たくさんの人々に支えられて生きてきました。その中で、喜びや楽しみがあり、感動し、時には失敗もしたし、悲しむ事もありました。

「二十歳になれば、もう大人だ」とよく言われますが、あまり実感が無く、五島に帰ってくる度に、まだまだ自分は子どもだなと感じる事が多くあります。この二年は一人暮らしをしており、自由な生活をしてきました。それは同時に、自分の行動に責任を持つ事を意味しています。その両立が取れる事が、大人なんだと思います。

自分には、まだまだその両立ができておらず、失敗ばかりしてきました。だけど、これを機に自分の行動に責任を持ち、一日一日をしっかり歩んでいけるよう、頑張っていきたいと思えます。

最後になりましたが、今回新成人の祝福を下された岩崎神父様に感謝致します。浦頭教会出身者であることを誇りに思い、これからの人生精一杯頑張っていきたいと思えます。



本村 勝義

現在、私は北九州市にある九州工業大学の工学部に所属しています。大学生活は正直とて

きついです。毎週出される意味の分からない課題や融通の利かない教授がいたり大変です。しかし、この大学は就職先がとてみいので、ストレートで卒業できるように頑張りたいと思えます。

この大学に入学でき、今の生活が送れているのは家族のおかげです。両親には特に感謝して

います。自分をここまで育ててくれ、今もたくさんのお援助をしてもらっています。今の自分がいるのは、両親のおかげです。実家にいる時からいろいろな相談にのってもらったり、背中を押してくれたりと、たくさんお世話になっています。そして、卒業するまでまだまだお世話になります。なので、卒業して働くようになったら親孝行をしてあげたいです。

「もう二十歳かー、速いなー」とは思うものの二十歳になった実感はあまり無く、今までとそんなに変わりのない日々を送る事になりそうです。それはそれでいいかなと私は思います。世間では二十歳は節目ではありませんが、自分の節目を決めるのは自分であり、その過程で進化していく事が一番ベストだと思ってるので、二十歳になったら頑張ろう！という事は特にありません！しかし、自分の生きる事のできる時間が短くなっている事は確かなので、目標を達成するために努力しないといけないなどは強く感じました。ちなみに、目標はトランスフォーマーを作る事です！

イルミネーションの片づけと新年会

一月十日、まず一時からの片づけの前に、倉庫のいらぬ物を整理した。イルミネーションの多さもあって、三十分前から沢山の人が集まり、それぞれの場所での片づけを始めた。

信者でない八人の手伝いもあって、二時間ほどで終わりました。

その後、五時から持ち寄りで行なわれた新年会は、手伝いに来てくれた人の数名を含め、四十名ほどの人が沢山の料理と飲み物で盛り上がり、新年を祝いました。



堅信式を向かえるにあたって

堅信組 入口 舞桜

私は、一月十七日に堅信式を無事に迎えることができました。小学生からけいこを八年間頑張ってきました。けいこでは、教会やイエズス様についてたくさん学ぶことができました。ミサやけいこに休まず行くことができました。四年生からは侍者もするようになり、堂崎教会でミサがあるときは、当番としてしっかりすることができました。でも、二回くらい寝坊して、岩崎神父様だけでミサをさせてしまったこともありました。

この八年間は、長いようで短かった八年間でした。一年生のときは、お祈りも歌も大きな声できていました。五月と十月のロザリオも毎回参加することができ、先あげをしっかりすることができました。一・二年生のときは、疲れてロザリオ中に寝てしまったことが多々ありまし



た。でも、六年間頑張ることができました。中学生になってからは、けいこが土曜日になり、部活の後そのまま行くようになりました。疲れているときもさぼらず行くことができました。

今回の堅信式を終えたら、大人の仲間入りするので、今まで以上にお祈りし、ミサにも参加し続けたいと思います。

これからたくさんお祈りし、キリスト教徒として、ふさわしい人になれたらいいなと思っています。なので、これからもたくさんのお祈りをお願いします。

おたより

四月から東京八王子に異動となり、早速こちらにお送りくださって感謝しております。

同じ浦頭小教区出身の大先輩 Sr 浜口もいますので、二人で楽しみにしています。先日、うちの学校の高校生が研修旅行で五島に行き、とても喜んで帰って来ました。これから、ますます島のひかりが広がっていくような気がします。

八王子市 純心聖母会
八王子修道院 Sr 赤尾 綾

いつも島のひかりをありがとうございます。読ませていただき、今回も教会の各部所で頑張っておられるのが良くわかりました。頑張ってください。

お祈りしております。
八王子市 純心聖母会
Sr 浜口 昌子

秘

跡

《洗礼》

一五年 十月三十一日
○アグネス 入口 里彩
(父…信 母…理恵)
同日

○ヨハネ五島 松本 佳樹
(父…佳憲 母…美紀)
《帰天》

○フランシスコ 宮崎 喜市
(十一月二十六日 六十一歳)

○ドミニコ 木口 岩吉

(十二月三日 六十七歳)

○テレジア 鍋内ツルエ

(十二月十五日 八十歳)

ありがとう

皆様、善き新年をお迎えのことと思います。旧年中は御芳志に限らず切手、為替証書、必要な備品等やおたよりと「島のひかり」に御協力頂き、ありがとうございます。

今年もよろしく申し上げます。

八王子市 純心聖母会
Sr 浜口 昌子

佐世保市 松田 トミ子 様

三田市 梅木 栄二郎 様

名古屋市 赤尾 道夫神父 様

ふるさとだより

「奥浦さるく」開催

冬の足音近づく十一月十五日（日）奥浦地区歴史探訪協議会主催での「奥浦さるく」が開催されました。今回は、大泊地区のキリスト教史跡を中心にしたコースを、奥浦小・中学校生徒や保護者を中心にウォーキングしました。

樫ノ浦までの空き缶拾いと湾内でのマグロ養殖の説明に続き、大泊地区では現在の奥浦慈恵院発祥の地である「大泊子部屋」跡で、養育事業のきっかけを作った梅木マセさんや、生涯を子供達の養育に捧げた浜崎ツイ慈恵院初代院長はじめ、その後のシスター方の御苦労についての歴史を振り返りました。

また、大泊教会跡地で山見山山頂にあった、旧膳棚墓地建設時の苦勞の数々も語られました。浦頭小教区内でも、最も多くの司祭やシスターが産まれている

大泊地区の信仰の力強さを感じる歴史散歩となりました。



交通安全立哨で表彰される

十二月二十一日、奥浦中学校体育館に於いて、小学生・中学生の集まり中、浦頭教会の福祉活動で朝の立哨活動代表で岩崎神父様と、五島市交通指導員の竹山要司さんが表彰された。

朝の子供たちの登校時間に子供達を見守り、交通事故から守るために頑張っています。子供たちの笑顔に勇気をもらいます。

最後の奥浦杯を終わって

一月十日、正月の雰囲気が残る中、第十五回奥浦杯フットサルフェスティバルが行なわれた。数々の名シーン、名勝負を生み出した大会も、少子化の波にさらされ、最後の大会となった。総勢百二十名程が、歴史に彩られ、いぶし銀に光るトロフィーを目指し、覇を競った。なお、奥浦チームは低学年の部準優勝、高学年の部三位。有終の美を飾った。



編集後記

昨年はいろいろな事があった一年だった。今年は、読者ともどもいい年でありませう様に。

木口 重憲

目標 スキルアップしポジティブに超？キモ？カワユク。👉
!!使用方法OK? 初ちゃん

世界平和のために祈ります。それには、家庭の平和・地域の平和から始まります。竹山 要司

今年の抱負は禁煙の予定です。あくまでも予定です。竹山 巧

世に思うことに、あまり期待できないが買わないと絶対当たらないのが宝クジで。

あまり期待できないが、絶対納金していた方がよいのが、年金のようです。だんだん距離が近づいた。 赤尾 淳

入口 信・木口誠也・小田洋市・田川小枝子、今年もよろしく。